



- 1 小中学生のための伊東豊雄さんのワークショップ
- 2 伝統的建造物群保存地区 諏訪小路と大内宿
- 3 建築基準法・建築士法他の改正
- 4 春 苦み、夏は酢の物、秋 辛み、
冬は油と 心して摂れ
- 5 緑茶一日五杯で軽減 6 カメラ屋小僧一代記
- 7 映画：花よりもなほ 8 ピカソ展：盛岡

小中学生のための 建築家伊東豊雄さんのワークショップ



広瀬川とメディアテークだけが配置されている真っ新な大地()の上に、小学1年生から中学2年生まで総勢24名が思い思いに創ってきた模型を配置し、道を造り、橋を渡し、夕方には下記()のような町が出来上がりました。

初め、子ども達が遠慮していたのか、メディアテークのまわりだけが空き地が目立ち、伊東豊雄さん「ちょっと寂しいな・・・」という一言に、



俄然子ども達が活気づき、屋上に宇宙船のようなレストランが、まわりには素敵な公園ができあがりました。

伝統的建造物群保存地区ということばを 聞いたことがありますか

つい最近まで、私たちは身近に茅葺きの家を目にすることができました。この4～50年の間に、世の中はすっかり様変わりしてしまいました。

「伝統的建造物群保存地区」とは、日本各地区に残されている歴史的町並み、集落などの保存を目的にはじまった制度です。「伝統的建物」ということではなくても、これからの私たちは意識して価値のある風景、意義のある建物を残していかなければ、どんどん古い

ものが消えてしまいます。

懐かしい風景が思い出と重なり、文化をつくってきた。その文化が消えていくのです。

壊してしまえばもう戻らないんです。

「復元すればいい」、「同じように建てればいい」という意見もありますがその価値は全然違うように思えます。

東北には、伝統的建造物群保存地区が4ヶ所あります。青森県に2ヶ所、秋田県に1ヶ所、岩手県に1ヶ所、福島県に1ヶ所です。

今回、岩手の「金ヶ崎町城内諏訪小路」と福島「下郷町大内宿」を探訪してきました。

「諏訪小路」は北上川に面する台地上にあります。伊達藩の家臣、大町氏の屋敷であった要害を中心に構成された武家町でした。街路に面して生垣と屋敷林が連なり、その奥に茅葺の武家住宅が配されています。

訪ねてみて、「何処が保存地区なのだろうか・・・?」。角館や妻籠とは違っていました。よ～く見ないと伝統的建造物群保存地区であると気付きません。旧大沼家侍住宅が復元されているということでしたが、かなり歩きまわったのですが見つからず、やっと見つけた「白糸まちなみ交流館」で教えていただきました。教えられなければ、絶対わからない所にひっそりと佇んでいるという雰囲気。意識して観光客を招き入れることはしないというスタンスのようです。桜や紅葉の季節はさぞや見事だろうと想像させられました。

旧大沼家では150円でコーヒーを飲むことができ、一杯のコーヒーが歩き疲れた心をいやしてくれました。一関から車で1時間弱の所にあります。

一方大内宿は会津若松と下野今市を結ぶ街道につくられた山間部の宿場町です。茅葺・寄棟造の主屋が妻面を街道に向け、一定間隔をもって規則的に建ち並び、この地方の宿場の典型的な形態をよく残している見事な景観をつくっています。

こちらは観光をかなり意識して軒並み店が並んでいます。ついつい買い物をしてしまいますがやはりまずは大内宿の風景をしっかりと見学したいものです。

いずれの地域も住みながら保存維持ということは大変だと思います。私たち訪問者も単なる「観光」ということではなく「敬意」をはらって探訪させてもらおうと思いました。



昭和 50 年の文化財保護法の改正によって伝統的建造物群の制度が発足し、城下町、宿場町、門前町など全国各地に残る歴史的な集落、町並みの保存が図られるようになりました。

建築基準法・建築士法他の改正

平成 17 年 11 月に明らかになった構造計算書偽装事件を契機として建築物の安全確保のための建築基準法・建築士法他の改正が 6 月 20 日より施行されます。

検査や届出が多くなり、罰則が強化され、確認申請料が高くなりました。具体的な例として、建築確認を受けずに建築物を建築した場合、懲役や罰金となります(建築主も罰則の対象になりますので注意が必要です)。また、建築確認済証の交付を受ける前に工事の着手しても同様です。

春 苦み、夏は酢の物、秋 辛み、
冬は油と 心して摂れ

春、「苦み」や「えぐみ」があるフキノトウや芹などが冬の間に溜まったアクを出してくれます。

夏、水分が多く甘みや酸味の強い身体を冷やしてくれる食べ物が旬。食欲が落ちやすい季節なのであっさりした酢の物を食べるといい。

秋、冬に備えて栄養を蓄え、身体を引き締めてくれる食べ物が穫れる。大根おろしや味噌料理などの辛みは更に身体を引き締める。

冬、寒さに耐えられるように根菜や漬け菜、良質の油を含んだ物を食べるといい。

明治の食医と言われる石塚左玄の言葉です。

日本には四季の変化があり、それぞれの四季に合った食べ物を食べることで、年間を通じて食のバランスを考えることが大切だと言っています。

この他に、人間は、臼状の歯の形から穀物を食べるべきであること。日本の地形、気候上からナトリウムを多く体内に取込む日本人は肉食は向かず、穀菜食でなければならないことを説き、患者ごとに、食べ物を食べることによって治療を施したと言われます。

また、一物全体食(自然食)、身土不二(風土食)を提唱、人は食物の摂り方によって体格や体力、風貌が決まるばかりでなく精神的、性格的なものも食物によって左右されるため、特に成長期の子供には体育、智育、才育のために食物は大切であるとも言っています。

石塚左玄ってどんな人・・・? 1851年に福井藩の医家の長男として生まれました。東京大学御雇、文部省医務局御顧問を経て陸軍軍医薬剤監となり、一度は西洋医学の頂点に立ちましたが、維新以後の日本がすべて西欧風になっていくことに医師としての危機感を増し、45歳で、食を通して病気予防と治療を説く「化学的食養長寿論」を発表。食養医学の基礎を築きました。

緑茶一日五杯で脳梗塞軽減

1994年から宮城県内の40 - 79歳の男女約40,530人を追跡調査、一日に緑茶を飲む量で4

グループに分け分析した結果、脳や心臓など循環器系病気の死亡リスクは、緑茶を飲む量が多いほど低下。一日に一杯未満の人に比べ、5杯以上飲む人は男性は22%、女性は31%低下した。脳血管障害では男性は35%、女性は42%低下。特に脳梗塞のリスクが低かった。 栗山進一東北大準教授グループの研究より

カメラ屋小僧一代記

作って良かった・売って良かった・買ってよかった

「丹羽壽彦と共に過ごして下さった皆さまおひとりおひとりに感謝をこめてお贈りします」という巻頭の文から始まる、111頁の写真いっぱいの本です。夫と二人で声を出して一気に読みあげました。

『「カメラ小僧」に憧れながらも、そのお手伝いをする「カメラ屋小僧」の道を選び、長い年月が過ぎました。とにかくカメラと写真が好きで好きで、やたらと探求心が強く、好奇心旺盛。それは人に対しても同じことで、日々、カメラを介してたくさんの方に会えるのが、楽しくて面白くて仕方がない。今思うと、我ながら、まさにカメラ屋の親父になるのいうってつけな性分だったという気がいたします。』銀一(株)会長

仕事とはこうあるべきだなあ～と実感させられます。好きなことに無心になり、それが人様のお役にたつ。そして、喜んでいただけたら・・・。これが本当の幸せなんですね。

映画：花よりもなほ

5月27日は、仙台市博物館で「吉村作治の早大エジプト発掘40年展」、せんだいメディアテークでは「花よりもなほ」なんて如何でしょうか？

日 時 5月27日(日) 30分前開場
11:00～ 15:00～

会 場 せんだいメディアテーク7Fスタジオシアター
入場料 一律 500円 電話 022-713-3171
<こんなお話し> 出演：岡田准一 宮沢りえ 他

藩が仇討ちに賞金を出していた元禄15年。若侍の宗左衛門は父の仇を討つため、信州から江戸へとやって来た。だが、なかなか相手を発見できない上に金も尽きてきた彼は、愉快的仲間にも困まれての長屋暮らしを始め、そして生計を立てるために寺子屋を開く。そうして月日を流すうち、宗左衛門は「仇討ちをしない人生」について考えることに。 監督：是枝裕和

ピカソ展

会 期 5月26日(土)～7月16日(日月)
会 場 岩手県立美術館
入場料 一般1000円 高校・学生600円
小中生400円

発行：(株)あべ建築開発 廠美町字沖野々145-2
総編集長：阿部眞昭 編集長：阿部えみ子
電話 0191-29-2511 fax 0191-29-2583